

# 学生アスリートが大学に求めるサポートについての検討

## ～今後のデュアルキャリア支援展開のため～

スポーツマーケティングゼミナール 1315029 三ノ宮聖弘

### 1. 研究動機・研究目的

近年、日本ではプロアスリートが引退後のキャリアに苦勞する、アスリートのセカンドキャリア問題が社会的な問題となっている。吉田ら(2006)は、トップアスリートの大半は競技以外の側面で「引退後の生活に対する不安」を抱えていることが最重要な問題点であると述べている。また、日本野球機構(NPB)が若手選手を対象に行った「現役若手プロ野球選手のセカンドキャリアに関する意識調査」(2016)では、引退後の生活に不安を感じている選手は67%であり、約7割の選手が不安を感じていることが分かった。引退後の生活に不安を感じているのは、プロアスリートだけでなく大学生アスリートも部活引退後の生活に不安を感じている。高峰(2010)が、体育学生を対象に実施したアンケート調査において、引退後への意識について、半数以上の学生が引退後のことを考えており、4割弱の学生が引退後に不安を感じていると述べている。一方で、今するべき事が分からないと答える学生も3割近くいた。

この問題に対して日本では、スポーツ基本計画(2017)のなかで、「デュアルキャリア」について意識啓発を行うとともに、スポーツキャリア形成のための支援を推進することを定めた。デュアルキャリアとは、「トップアスリートとしてのアスリートライフ(パフォーマンスやトレーニング)に必要な環境を確保しながら、現役引退後のキャリアに必要な教育や職業訓練を受け、将来に備えること」と定義されている(文部科学省2017)。

日本の大学のアスリートへの支援について、古谷(2015)は、「アスリートの競技力向上と教育の両輪を担うことが出来る大学が、アスリートのデュアルキャリア形成に与える影響は大きい」としデュアルキャリア支援において大学の重要性を示唆している。

そこで、本研究では、学生アスリート自身が大学に求める取り組みについてインタビューによって明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究方法

インタビュー調査の同意が得られたJ大学に在籍する学生トップアスリート(大学卒業後も専門競技を続ける選手)5人を対象に半構造化面接を実施した。調査内容は、大学生活におけるデュアルキャリア意識の現状と、学生アスリートが大学に求める取り組みについて調査した。分析方法は、参加観察法を利用し、データをテキスト化し、修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)の枠組みを参考にインタビューデータを整理した。

### 3. 主な結果と考察

大学の取り組みとして求められることとしては、選手とチームを繋げる代理人のような人の配置、キャリアについて相談できるキャリアカウンセラーを大学内配置、OBと学生を繋げるサポート、社会人として必要な実践的な講座を受講出来る機会を提供、キャリアセミ

ナーや講演の開講、履修登録モデルプランの複数提供、寮の設置、学生食堂の改善といったサポートが挙げられた。

学生の取り組みとして求められることとしては、学びたいこと、将来やりたいことを明確にする、周りに流されずに自分の能力を見極める、ということが挙げられた。

カテゴリー			概念	
アスリートとしてのキャリア	学生アスリート	大学生生活	競技	試合出場の機会 大学生生活における競技の割合増加 参加できなかった学校行事
			学業	学業と競技の両立 多忙な学生生活
		キャリア形成について	ファーストキャリア(選手)	競技を続ける上での不安 悔しさからの挑戦 将来に対する期待
			セカンドキャリア(指導者、教員、企業就職)	社会人になる上での不安 出身チームでの指導 得意分野での活躍
			ファーストキャリアのためのサポート	選手とチームを繋げる
			両立するためのサポート	OBとの繋がり
	大学に求めるサポート	セカンドキャリアのためのサポート	講座(社会)受講機会の創出	

#### 4. 結論

学生アスリートが大学に求める取り組みとしては、選手とチームを繋げる代理人のような人の配置、キャリアについて相談できるキャリアカウンセラーを大学内配置、OBと学生を繋げるサポート、社会人として必要な実践的な講座を受講出来る機会を提供、キャリアセミナーや講演の開講、履修登録モデルプランの複数提供、寮の設置、学生食堂の改善が必要であることが明らかになった。

また、プロを目指す学生に対する大学側の特化した支援がない現状にあるということも、明らかになった。そこで、競技を続けてプロを目指す学生に対しても、教員を目指す学生、就職をする学生と同じような十分なサポートをすることができれば、学生が学生のうちから競技引退後を考えるデュアルキャリア支援に繋がると考えられる。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文を執筆するにあたり、多くの方々からご指導、ご協力を受け賜りました。この研究を卒業論文として形にすることが出来たのは、ひとえに、担当して頂いた工藤康宏教授の熱心なご指導や、様々なアドバイスをいただいた大学院生、インタビュー調査に協力してくれた順天堂大学男子蹴球部 5 名のおかげです。協力していただいた皆様に心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。

主な引用参考文献

文部科学省(2017)「スポーツ基本計画」

日本オリンピック委員会(2010)「日本オリンピック委員会(JOC)強化指定選手・オリンピックのセカンドキャリアに関する意識調査」

日本スポーツ振興センター(2014)「デュアルキャリアに関する調査研究」